

## 次期中野区基本計画等の策定に向けた検討状況について

区は現在、次期中野区基本計画（以下「次期基本計画」という。）及び次期中野区区有施設整備計画（以下「次期区有施設整備計画」という。）の策定に向けた検討を進めている。現在の検討状況等について、次のとおり報告する。

### 1 タウンミーティング等の実施結果

次期基本計画及び次期区有施設整備計画（以下「次期基本計画等」という。）の策定に向け、区民等の意見を踏まえた検討を進めるため、以下のとおりタウンミーティング等を実施した。

#### (1) タウンミーティング

日時	会場	参加者数
11月7日(木)18時30分～	中野区役所	14人
11月12日(火)18時30分～	野方区民活動センター	18人
11月23日(土)10時～	南部すこやか福祉センター	18人
11月30日(土)14時30分～	中野区役所	20人
計		70人

#### (2) 子どものタウンミーティング

日時	会場	参加者数
12月7日(土)15時～	中野区役所	11人
計		11人

#### (3) 意見募集

件数 36件（電子申請 35件、郵送 1件）

※うち子どもの件数 1件（電子申請 1件）

#### (4) 関係団体等からの意見聴取

団体数 67団体（集会形式 15団体、電子メール等 52団体）

延べ参加者数 202人

## (5) 主な意見の概要

別紙1のとおり

## 2 次期基本計画における人口推計について

### (1) 検討段階における人口推計の状況

国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来人口（令和5年推計）」を基に、直近の住民基本台帳人口等を勘案した補正を加えることにより、現在の傾向からの推計を行った。（推計状況は別紙2のとおり。）

### (2) 今後の検討

次期基本計画における取組との関係性を踏まえた人口推計について、検討を進めていく。

## 3 次期基本計画における重点プロジェクトについて

次期基本計画では、現行の中野区基本計画から引き続き重点プロジェクトを設定することとし、以下の考え方に基づき検討を進めている。

### 【重点プロジェクト設定の考え方】

- ・基本構想で描くまちの姿の実現に向け、政策及び施策を効率的かつ効果的に推進することを目的に設定する。
- ・設定するプロジェクトは「子育て先進区の実現」、「地域包括ケア体制の実現」、「活力ある持続可能なまちの実現」とし、各プロジェクトにおいては、政策を超えて共有する理念を掲げる。
- ・理念を基に政策横断的な視点を持って推進する取組を位置づける。

## 4 今後のスケジュール

2025年	6月	次期基本計画等骨子
	9月	次期基本計画等素案
	11月～	意見交換会等実施
2026年	1月	次期基本計画等案
	2月	パブリック・コメント手続の実施
	3月	次期基本計画等策定

※ 子どもの意見については、冒頭に(\*)を付記

NO.	主な意見
<b>基本目標1 人と人がつながり、新たな活力が生まれるまち</b>	
1	町会などすでにあるもの以外でも様々な場所で、区民が活動できる仕組みをつくってほしい。同年代や共通項のある人が遊びを通して交流できる場や異なる年代が意見交換が行える場など様々な機会があると良い。
2	現在の地域活動者の年代層は60歳代以上が中心となっており、若い世代に地域活動への参加を広げることが求められている。多様な世代の参加を促進するために、小・中学校での福祉学習の機会の提供や20歳代、30歳代の地域活動への参加機会の創出、例えば参加のインセンティブとして地域通貨（ナカペイ）などのポイント付与の仕組みなどの取組を行政施策の中でも進めてもらいたい。
3	区民の自主的な活動や、ボランティア活動の活性化のために区民活動センター以外の活動できる拠点が必要である。公共施設だけでなく、空家や空き店舗などの活用ができるような仕組みがあれば良い。同時に大人も子どもも、誰もが立ち寄りやすい居場所づくりを行政が支援してほしい。
4	区に転入してきた方などが、居住している地域の町会情報を得やすくする工夫や町会に加入しやすい雰囲気づくりが大切である。また、町会の持続的な活動を行っていくためにも、町会への加入を促すことは重要であり、このための様々な取組に対する支援として助成金を拡充してほしい。
5	様々な事情により、地域にあった地蔵や祭りの神輿の置き場がなくなる例がある。特に神輿は、防災のための地域の連携づくりにも大きく寄与している地域の祭りに影響がある。地域の祭りは必ずしも宗教的な意味合いがあるわけではなく、こうした状況を踏まえた支援策を検討してほしい。
6	民生委員など、町会への業務委託が多すぎる。公的な対応を強化し、町会と連携する体制を整備してほしい。
7	区のお祭りなどのイベントは四季の森公園が中心に行われている。色々な地域でも実施してほしい。
8	イベントを実施する際に参加者が多すぎても対応できないことがあるので、ためまづを区の助成金を受ける条件に含めないでほしい。
9	地域活動について、どこでどのような活動が行われているのかわかりづらく、区からの情報が届いていないと感じる。SNS等を活用し、全ての情報が入手できるようなプラットフォームをつくってほしい。
10	区の施設や掲示板について、小さな団体も使用できるようにしてほしい。
11	これまで築いてきた伝統を分かち合えるような地域づくりが必要だと思う。また、高齢者を大切に考える視点や、モラルを守る視点は地域の中で共有されるべきだと思う。
12	他自治体でも実施しているように、中野区でも体験型のふるさと納税の返礼品を検討してほしい。
13	イベントの周知をする際、区内でアートを学んでいる学生にイベントのポスターやチラシの作成を依頼してほしい。
14	区民活動センターなど、区の施設に子どもの本が置いてあっても、利用している子どもが少ないため、みんなが利用しなくなるような工夫をしてほしい。
15	(*)お祭を増やしてほしい。
16	商店街の高齢化が進んでいるため、デジタル社会になじむような場の提供を行い、支援をしてほしい。また、コロナの時期に転入された方と昔から住んでいる方の地域活動に対する意識の違いがあるため、すべての人が楽しめる仕組みをつくってほしい。
17	子どもがいない世帯や単身世帯が地域とつながるような機会を創出してほしい。
18	新しくできるシンボルタワーについて、PR拠点整備を推進してほしい。また、バンケット・コンベンション機能及び展望台を設置してほしい。入居企業の選定にあたっては、地元企業に配慮した対応に努めてほしい。

NO.	主な意見
19	中野駅周辺のまちづくりにおけるエリアマネジメントを進めてほしい。また、中野駅が再整備される中で、その他のエリアをどのような機能として位置付けるかが重要である。現在の検討状況について教えてほしい。
20	中野サンプラザは中野のまちのシンボルでもあると思うので、形として残してほしい。中野駅周辺の再開発にあたっては、新北口エリアにおける拠点施設におけるホールに係る利用しやすい収容人数の検討、イベントの開催しやすさ、周辺環境や防災面の整備に取り組んでほしい。また、事業を進めるにあたり、区民の意見を聞き、今後について分かりやすく説明してほしい。
21	中野駅周辺の再開発に際しては、南口のレンガ坂や北口の歓楽街が調和するような、中野らしい街並みを維持してほしい。
22	アニメコンテンツを活用した地域ブランディング事業などで、中野サンプラザの再利用ができないか検討してほしい。
23	中野サンプラザのプロジェクションマッピングについて、開催ただけで終わらせるのではなく、この実績をもとに新たな取組につなげるべきではないか。
24	中野区でもアール・ブリュットが開催されているが、しぶやフォントのように、より気軽に障害者アートに触れる機会があると良い。特に中野駅周辺の再開発と絡めて実施することで、より効果的な取組になると思う。
25	企業や大学の誘致に力をいれてほしい。
26	中野駅周辺に休憩できるベンチの設置など、歩きやすくなるような工夫をしてほしい。また、様々な人が交流出来る場を設けてほしい。
27	駅周辺の喫煙エリアを分離してほしい。また、子育て家庭や車いすの方が利用しやすいように、道路の段差にスロープを設置してほしい。さらに、バス停に到着時刻や遅延情報を電子表示させるなど、ユーザビリティを向上させてほしい。
28	中野駅の南北の通行の利便性向上のため、自転車専用道路を設けてほしい。
29	区内に、若年層から壮年層、さらには高齢者まで幅広い年齢層が楽しめるような画廊をつくってほしい。また、美術館、博物館、コンサートホールなどの文化施設を充実してほしい。
30	図書館は全世代が利用するものであり、区民が文化を身に付け教養を高めることに寄与している。そのため、現存する図書館の改修や増設、書籍の充実、書籍の多言語化及び館内で読書や勉強ができる環境を整えてほしい。
31	中野東図書館について、7階で大人が1人で本を閲覧できるようルールを見直してほしい。他の図書館についても、ゆっくり本を閲覧できるような環境にしてほしい。
32	区内で芸術家作品展や文化人の講演会など、文化人が活躍できるような支援をしてほしい。
33	中野ではアニメや漫画などのサブカルチャーが浸透しているので、更なる活用を図り、中野区のブランディングを進めてほしい。また、新しい区役所はシェアノマ等、開放感があるスペースがあるため、積極的に活用し、イベントを増やしてほしい。
34	区民の創作活動の発表の場を増やしてほしい。また、若者が気軽に舞台を利用できるよう、安価で施設の貸し出しをしてほしい。
35	区民のひろばや区のお知らせ版を、地域の文化やアートを活かしてリニューアルしてほしい。また、区民のひろばの設置場所が分かりづらいため、周知を徹底してほしい。
36	中央線ガード下ギャラリーは駅の整備と併せてもっと見やすいスペースへの移動や、ケースをきれいにしてほしい。
37	中野ブロードウェイや劇場、ギャラリーなど、芸術や文化への支援をしてほしい。また、小さな店舗や個性のある店舗が存続できるような支援をしてほしい

NO.	主な意見
38	(*)中野区はサブカルや芸術が発展した場所なので、ぜひ美術館を設置してほしい。また、中野サンプラザ跡施設には、コミックマーケットのようなイベントを開催できる展示ホールを設置し、発表や発信ができる場をつくってほしい。中野出身のアーティストや中野で行われるイベント等、中野「発」の人や事が増えてほしい。
39	外国人に分かりやすいように、ごみの捨て方や集積所の看板をやさしい日本語や多言語で案内してほしい。ごみの捨て方がわからず、ゴミの出し方が雑になることによって、外国人に対するイメージが悪くなるのではないかと。
40	区内の外国人人口が増加しているデータがある一方で、交流の機会はなく、異なる文化や価値観にどのように関わっていけばいいかわからない。気軽に参加できる地域との交流機会やイベントを実施してほしい。併せて、外国人がアクセスしやすい情報発信をしてほしい。
41	外国人の悩み事を解決できるよう、外国人が相談しやすい窓口に力をいれてほしい。また、外国人が安心して区役所での手続き等を行えるよう、多言語ややさしい日本語などで対応できるようにしてほしい。
42	外国人観光客の増加に伴い、治安の悪化が懸念される。外国人の方が増えることのメリットとリスクを考え、区民のこれまでの生活や治安を守りながら、多文化交流ができるまちづくりをしてほしい。
43	外国人の方やLGBTQの方について学べるような、多文化共生に関する教育を学校で行ってほしい。
44	スイスのバーゼル市では、住民登録をした外国人に対して、区議会でウェルカムスピーチがあり、語学を学ぶことができるクーポンが配布されるなど、外国人を地域の一員として受け入れる体制がある。外国人の視点からも、地域に受け入れられたと感じられると地域に貢献したいという意識を持つことが出来ると思う。このような例を参考に、中野区でも取り組んでもらいたい。
45	飲食店のメニューの多言語案内をはじめ、各種案内を多言語で行ってほしい。
46	区民が互いに認め合い、区民一人ひとりの権利や意見が大切にされるようなまちづくりを進めてほしい。
47	外国人の居やすさなどの点で、中野区中心部と区境（鷺宮）では温度差があるように感じる。中心部以外の地域でも、中心部を手本として、外国人の暮らしやすさが向上するような取組があるとよい。
48	区内経済の活性化及び区の事業者への支援として、人材確保支援や中小企業支援拠点の整備、創業者の誘致と定着を図る支援体制の構築、経営改善支援などに取り組んでほしい。
49	中野区デジタル地域通貨の運用にあたっては、地域に貢献している事業者がメリットを受けられるよう取り組んでほしい。
50	ナカペイなどの電子マネーについての政策は、高齢者が恩恵を受けづらい。区民全員が恩恵を受けられる政策をしてほしい。また、チェーン店だけでなく地域密着型のお店でもナカペイを利用できるようにしてほしい。
51	過去に区が行った画像解析技術による商店街来訪者の属性分析を活用し、商店街の活性化を図ってほしい。早稲田通りは拡幅待ちで空き店舗が多いため、うまく活用し、活気を取り戻してほしい。また、ナカペイを普及推進し、商店街のキャッシュレス化を進めてほしい。
52	区の地域産業について知る機会があると良い。
53	(*)中野が新宿のように人が多すぎるような状態になってほしくないと思っている。特定のお店が多かったり、地域によって店舗数に偏りがあるため、様々なお店を利用しやすいように地域差をなくしてほしい。
54	区報は見やすい一方で二次元コードが増加しているため、区の施設や保育園・児童館などでチラシを掲示することも大事だと考える。また、住んでいる人が楽しく住み続けられることを第一に考え、区民が楽しんでいる様子を発信すると良いと思う。そのために、「街ピアノ」を設置する等して、音楽を無料で演奏したり聴いたりして楽しめる機会をつくってほしい。
55	基本計画の施策の主な取り組みで「男女共同参画の実現」が挙げられているが、近年は「ジェンダー平等」という表現が一般的になっており、世界的にも普遍的な概念だと思われることから、施策として掲げるべきだと思う。

NO.	主な意見
<b>基本目標2 未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち</b>	
56	小学校の宿題が多い。また、雨の中で遠足を実施されたことがあるが、持病がある子もいるため、子どもの健康に配慮してほしい。
57	小学校における障害児対応として、介助員の数が少ないと感じる。
58	情緒学級の設置を進めてほしい。
59	区立幼稚園は教育内容が素晴らしいので、どこの地区からも通える場所につくってほしい。また、幼稚園の給食費について、他区のように補助を実施してほしい。
60	全ての子どもたちが通いたくなるような学校づくりについて、学校だけでなく保護者や地域と連携し進めてほしい。
61	子どもたちの家庭生活や学校生活等における身体活動の向上を図るための教育や啓発活動を実施する必要がある。合わせて、運動やスポーツ活動を推進していくべきだと思う。
62	中学校部活動の地域移行について、教育委員会だけでなく関連部と連携を図り、先行事例の研究をしてほしい。その上で、早期に現状と課題を明らかにし、次期基本計画に方向性と目標を記載してほしい。
63	ひがしなかの幼稚園について、建物は老朽化し数年前より建替が課題となっている。旧第三中跡地に整備された第2園庭に園を建設し、快適な教育環境を実現してほしい。また、当該幼稚園内の植物は都心では類を見ないほどの自然環境を維持しており、貴重な財産です。園が移転した後もこの自然環境を最大限有効に生かせるようにしてほしい。
64	小学校の校庭が人工芝だと、気温が高いと使用が制限されること、災害時に火が使えないなどのデメリットがある。区民の意見も聞いた上で利用しやすい校庭に向けた検討をしてほしい。
65	教員が不足している中で、子ども一人ひとりに寄り添った対応をするためには、子どもの悩みの相談役となるカウンセラーの増員などによる対応や、教員、保護者、その他関係者の連携を進めてほしい。また、キャリア教育の充実のため、専門家をいれることなどにも取り組んでほしい。
66	学校における性教育を充実させてほしい。
67	子どもたちがネットリテラシーやAIなどのテクノロジーを学ぶことのできる教育機会の創出・充実ができるとよい。
68	学校では子どもの意見を尊重して、コミュニケーションスキルを学べるようにしてほしい。また、学校内外問わず、子どもがおりのままにいられる居場所が必要だと思う。
69	区境付近は保育園・小中学校の選択肢が少ないことから、他区にも容易に通えるようにしてほしい。
70	将来の学校は、子どもだけが集まる場所ではなくなると思う。現在計画している学校の施設整備は止めて、新しい考えを出していくのが良いのではないか。
71	教育に力を入れていることで有名な他自治体を参考にして、中野区で子どもを育てたいと思えるような教育環境を整えてほしい。
72	南台小学校の建替工事が遅れている。子どもが早く新しい校舎を使えるよう、工事を急いでほしい。
73	学校内の空きスペースを保護者が待機できる場所として確保してほしい。また、コミュニティ・スクールを推進して、地域で子どもの教育に関われるようにしてほしい。
74	自分の意見を主張するだけでなく、異なる意見をすり合わせることも重要になると思う。そのための力を養うために、ファシリテーション学習などを行っていくと良いのではないか。また、区議会の問題やモラルの大切さについて、授業で取り入れるべきだと思う。

NO.	主な意見
75	不登校の生徒が増加傾向にある。オンラインで授業を受けられるようにするなど、学習方法を選択できるようにしてほしい。また、子どもに寄り添ったコミュニケーションを取り、復学できるよう支援してほしい。
76	外国人の子どもが教育を受けられる環境を充実してほしい。
77	学生が勉強できる場所はあるかもしれないが、大人が勉強できる場所が不足している。大人が勉強できる場所があるのであれば、周知に力をいれてほしい。
78	学童クラブを卒業した子どもたちの居場所が必要だ思う。学童を卒業する前に、地域の居場所になじめるようなきっかけづくりを区で行い、子どもたちが居場所を見つけられるようにサポートしてほしい。
79	子どもの居場所を充実してほしい。園庭がない保育園の園庭に代わる遊び場の整備、学校で子どもがのびのびと過ごすことができる校庭の確保や放課後の居場所の充実、区立学校の増設など、子どもたちにとってゆとりある環境の整備に取り組んでほしい。また、子どもの生活・行動範囲の中で身近に感じることができ、自由に過ごせる居場所として、プレーパーク事業が利用されるよう充実に図り、他の地域にも拡充を図ってほしい。併せて、子育て世帯の交流の場について、情報発信も含めて充実してほしい。
80	子育て家庭を地域社会で支えるためには、保育園、学童クラブ、病児保育や認可保育園の一時保育などを利用しやすくし、仕事と子育てとの両立支援を充実してほしい。また、民間企業との協働や、子ども食堂を行う団体への補助を充実し、地域ごとに子どもを支援するネットワークをつくってほしい。
81	江古田の森公園のプレーパーク試行について、土を搬入するなどの行為が生態系を壊す危険があると思う。当該公園は、自然があり貴重な公園であるため、当該公園でしかプレーパークを開設できないのであれば、プレーパークは必要ないと認識している。
82	児童館の建替は計画的に進めてほしい。併せて、児童館の学習室で子どもの勉強を教えてくれる人の派遣や、中高生向けイベントの実施など、機能を充実してほしい。一方で、児童館の民間委託に不安を感じているため、直営での運営も再検討してほしい。
83	若者支援について、若者がやってみたいことを支援するような補助金制度や若者が意見交換などで交流ができる「若者カフェ」をつくってほしい。また、区の歳入、歳出について学生にも分かるように公表し、区の財源を何に優先して使うべきか様々な年代と考える場を設けてほしい。
84	地域によって差があるため、平和の森公園以外でも、子ども向け休もうクラスを増やしてほしい。
85	公園の利用ルールが厳しいと感じる。ボール遊びができる公園や施設を増やしてほしい。それと併せて、利用者がルールをしっかりと守ることも必要であることから、公園の防犯カメラは、防犯目的だけでなく、公園の利用ルール違反取締りにも活用してほしい。
86	(*)公園は、遊具が少ない、たばこを吸っている大人がいるなど、利用しづらく感じる。また、やわらかいボールが使えるようになったところはあるが、本当にやりたいサッカーやバスケットボールができず、公園でできることが少ない。ボールを使える運動広場はすぐ混んでいる。ボールが利用できる公園でもサッカーやバスケットボールが思いっきりできる公園をつくってほしい。併せて、室内でも遊べる公園もつくり、子どもが放課後などに安心して遊べる場所がほしい。
87	プレーパークの道具などを置くスペースを用意するなどして、プレーパークの運営をしやすくしてほしい。
88	絵本ラウンジLOOPについて、日曜日営業するなど、公園利用者により有効活用できるようにしてほしい。
89	四季の都市(まち)にある大学をより地域に開かれた場所にしてほしい。
90	(*)子どもが勉強できる場所が少ないため、自習できる場所を増やしてほしい。また、フリースクールがもっと増えてほしい。
91	(*)子どもが自由にしている場所を屋内外問わずつくってほしい。また、中高生の居場所が少ないため、teens caféなどのイベントの開催頻度を増やし、もっと参加しやすいようにしてほしい。
92	子どもの貧困対策やひとり親家庭への支援対策について、実態把握を行い、経済的側面と社会的側面の両面から支援してほしい。

NO.	主な意見
93	医療的ケアを必要とする子どもについて、保育園における受入れを現在より手厚くしてほしい。
94	保育園と比べ、幼稚園は負担額が多いため、補助を増やしてほしい。
95	虐待を受けているかもしれない子どもを見かけたときに、児童相談所に相談して良いか分からない人が多くいる。児童相談所に通報しやすいような環境づくりや周知を行ってほしい。また、児童相談所が6階にあり、物理的にも相談しにくいと感じた。
96	困っている子どもや子育て家庭へのアウトリーチ活動に力をいれてほしい。
97	療育が必要な児童が大きくなった時の受け入れが可能な施設があると良い。
98	学校や職場において、障害児と健常児の居場所を分けず、同じ場所で過ごせるような体制にしてほしい。
99	就学相談で地域の学校を推され、体験したが厳しかった。個別に介助をつけることができない状況とのことで、結果的に後日遠回しに入学を断られてしまった。支援員が少ないということも大きな問題で、給与など待遇を改善する必要がある。
100	障害児福祉関連手当について、国制度での所得制限があることにより、就労を妨げる要因になっている現状を踏まえ、所得制限の対象により支給の対象外となる人に対し、区独自の手当を支給することを検討してほしい。併せて、子どもを安心して預けられる環境を整備する観点から、特別支援学校等への就学後も、支援員の加配ができるような制度についても検討をしてほしい。 この取組を進めることで、障害を持った子どもとその家庭が中野区に集まり、障害児支援の機会が増えることから、支援員の質の向上にもつながると思う。 これらの取組を総合的に進めるため、障害児福祉への寄付を募って財源を確保していくとよいと考える。
101	医療的ケア児等支援地域協議会及び情報連絡会に、中野区医師会、中野区歯科医師会及び中野区薬剤師会も参画してはどうか。
102	発達障害の子どもについて、相談から療育利用開始までの期間を短くしてほしい。また、早期発見できるような取組の充実や発達障害の子どもに関する相談先の周知の改善を図ってほしい。
103	障害児の障害福祉サービスの自己負担額について、障害児本人の所得で見てもほしい。重度の障害児者は法外サービスを含め、複数のサービスを利用するため、利用者負担額が10万円近く発生し、実際の収入以上となるケースがある。働くモチベーションが下がる。
104	障害児を育てる親が安心して働けるように、放課後デイサービスやタイムケア事業の拡充を検討してほしい。また、再就職支援に力をいれてほしい。
105	すこやか福祉センターでの3歳児健診において、性教育の観点から、男女ともに裸ではなくシャツを羽織るなど考慮してほしい。
106	産後サポート事業について、地域で実施施設数の違いがあることが原因で利用が少ない地域があると認識している。利用者にとって、地域差が生じないよう工夫してほしい。
107	産前産後ケアを充実させて、安心できる環境づくりをしてほしい。また、産後ドゥーラについて、カンガルー面接の時に伝えてもらう等、産後ドゥーラの周知に力を入れてほしい。以前住んでいた自治体では、妊娠届提出時に、産前産後の情報がまとめられた資料を提供されたことがあり、同様の取組を中野区でも行ってほしい。
108	妊娠・出産について男性が学ぶことのできる機会を設けてほしい。 父親同士の交流や母親の負担に対する情報共有の場として各校におやじの会があると良い。
109	保育園等に通っている4・5歳児の子どもたちが、毎年1回でも良いので、観劇等、真の芸術に触れられるような支援してほしい。
110	乳幼児から小学生を対象とした支援や対策は多い一方で、中学生から大学生を対象とした支援が少ないと感じるため、文化芸術やスポーツイベントへの参加機会の創出、学習スペースの確保、他校の学生とも交流できるような機会の創出等の居場所づくりに取り組んでほしい。

NO.	主な意見
111	子どもが主役のお祭りを開催してほしい。
112	小学校など色々なところにブックポストを増設してほしい。
113	高齢者と子どもなど世代を超えた交流が少ない。登下校時の見守りや、町会や高齢者会館でのイベントに子どもたちも参加する機会を確保できるようにするなど大人と子どもが地域の中で交流できる機会を設けてほしい。
114	子どもの育ちを考え、次世代の自治運営を考えるためには、大人達の成長かつ思いやりが必要です。
115	子どもの発達やペアレントトレーニングなど、子育てに役立つ知識を得られる場や機会が定期的にあると良い。
116	子どもを連れていけるお店が少ない。子ども用の椅子や食事などを用意しているお店が増えると、子育て家庭の外出が増えるのではないかと。
117	子どもが雨の日でも遊ぶことのできる、フードコートや室内遊び場があるような商業施設をつくってほしい。
118	区内に公園が少なく、遊具が不足している。公園の増設や子どもが遊べるような遊具の充実を検討してほしい。また、インクルーシブ遊具のある公園や交通公園、親水公園など特色ある公園が増えると良い。加えて、公園にタワーマンションを建てない条例をつくってほしい。
119	区内の民間保育所等での人材確保にかかる支援を充実してほしい。
120	保育や教育に携わる人たちの労働環境を改善するための取組を進め、安心して働き続けられる環境を整えてほしい。
121	保育園等に外国籍の保護者が増えてきている。区として、通訳の派遣や紹介ができるようにしてほしい。
122	幼児期になると、家賃が安く部屋数が多い自治体に転出する子育て家庭が多く、学校の環境などの理由で杉並区に転出する家庭もいると認識している。4人家族が住み続けられるような住宅の整備や区民への家賃補助、学校再編計画の見直しなど適切な学校規模の検討を進めてほしい。
123	自然環境の保全や整備、地域の安全対策の強化を進めるなど、住環境の向上を目指してほしい。
124	区で結婚し、子育てしたくなるようなまちづくりをしてほしい。
125	中野区子どもオンブズマン、中野区子ども相談室など、子どもが自ら意見表明できる機会を増やし、当事者である子どもの声を具体的な施策や事業に反映できるようにしてほしい。また、子どもの権利条例の周知に力を入れてほしい。
126	専門家でも独身男性というだけで小さい子どもを指導する際に警戒されてしまうため、そのような誤解がないようにしてほしい。
127	民間の保育園について、大規模修繕や改築・建替に対する支援をしてほしい。また、区の計画の中にも当該支援に係る内容を盛り込んでほしい。
128	少子高齢化が問題となっているが、中野区においても色々な対策に取り組んでほしい。
<b>基本目標3 誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち</b>	
129	生涯学習大学での活動は活発に行われているが、卒業と同時にその関係が薄れてしまう状況がある。また、先輩後輩の縦のつながりが弱い状況がある。つながりをより強くして、地域と一緒に活動できるようになるとよい。こうした状況は認知症サポーターとしての活動でも感じるところであり、併せて改善していけるよう環境づくりに取り組む必要があると思う。
130	高齢者支援においては、高齢者本人への支援はもちろん重要だが、高齢者を支援している周囲の方々への支援も行ってほしい。
131	足腰の運動ができる機会を増やし、口腔ケアを促すなど、フレイル予防に取り組んでほしい。

NO.	主な意見
132	高年齢労働者の転倒災害をはじめとする労働災害の防止のための啓発事業や活動について、国の転倒災害防止の取組と歩調を合わせた施策をしていく必要がある。
133	デジタルデバインド解消のために、障害者や高齢者向けにスマートフォンの使い方の講座を企画してほしい。
134	誰もが自分の強みや経験を活かせる地域にするため、中野区基本計画の政策12「生涯現役で生き生きと活躍できる環境をつくる」にピアサポート活動を盛り込んでほしい。
135	認知症の方が安心してまちを歩けるよう、受け入れられる体制を整えてほしい。また、認知症の方の居場所や活躍できる場を設けてほしい。
136	図書館のスペースについて、高齢者が人とつながることができるような企画やエンターテインメントへの活用など様々な取組を検討してほしい。
137	介護認定を必要としている方の一人ひとりのニーズに合わせた対応や、個々の困りごとを解決する支援をしてほしい。
138	高齢者や定年退職した方の活動の場が少ないと感じる。ボランティア活動の推奨や地域活動など、生きがいを得る機会の創出や場所の提供をしてほしい。また、高齢者の就労の機会を増やしてほしい。
139	福祉住宅（第二昴館）の管理人をヘルパーにして住民ケアができるようにしてほしい。
140	高齢者が区に意見を伝えやすいように、書面で意見や要望を伝えられるような仕組みをつくってほしい。
141	外出が難しい高齢者や障害者などに向けて、出張図書館などがあると良いのではないかな。
142	サービス付き高齢者向け住宅を整備してほしい。
143	福祉ガソリン券について、原油価格高騰を踏まえた金額の増額とともに、利用できるガソリンスタンドをセルフガソリンスタンドも含め拡大してほしい。
144	障害にも様々なものがある中で、それぞれの特性に合わせて最適な支援につなげるためには福祉に関して包括的に相談ができる環境が必要であると考えます。行政として、福祉に関するワンストップの包括的な相談支援を充実すべきだと思う。
145	障害者の地域移行や就労に向けた支援を充実してほしい。また、障害を踏まえた多様性についての学習会、意見交換の場の充実や障害者がスポーツができる環境の場を設けるなど、地域全体で障害者を含むあらゆる人の暮らしを支える体制を整えてほしい。
146	障害者が相談できる機関について、現在は区内に点在しているが、1か所に集約したり、近くにまとまっている方が相談に行きやすいのではないかな。支援者側も関係機関との連携が図りやすくなると思う。中野区保健所やスマイルなかのであれば、交通の利便性も良い。
147	今後医療的ケア者の増加が想定されるため、医療的ケアに特化した施設の設置及び障害者施設の定員の増加、並びに障害者福祉会館の建替の際は、重度障害者グループホームを併設してほしいという声も利用者から寄せられているため、是非検討してほしい。また、障害の重度化により、生活介護事業所への通所が困難になる方の増加が見込まれることから、通所以外の事業の検討を進めてほしい。
148	江古田三丁目重度障害者グループホーム等施設について、重度障害者がしっかりと利用できる施設にしてほしい。
149	障害者に対する支援について、修学支援や職場での身体介護、通勤介助に加え、通所時の移動支援も実施してほしい。
150	親や介護者の病気や死亡などの緊急時にすぐに対応してもらえるような場所を区役所内に設けてほしい。
151	医療的ケアを必要とする子どもへの支援として、医療的ケア児等支援地域協議会及び連絡会を実施しているが、このような支援を大人にも広げてほしい。

NO.	主な意見
152	重度の知的障児の中学校卒業後の進学について、環境整備を含めて検討してほしい。また、障害者が高校を卒業後に通える通所施設が少ないため、特別支援学校で続けてきた学習が途切れてしまう。通所施設でも外部専門家（元教員など）を雇用し、学習の機会を提供してほしい。さらに、18歳以上で医療的ケアが必要な重症心身障害児のための通所後の施設や居場所を整備してほしい。
153	視覚障害者や車いすを利用している障害者がより安全・安心に生活できるよう、点字ブロック以外の歩行補助について検討してほしい。
154	現在、発達障害について、相談してから療育利用開始まで2ヵ月以上かかる。相談から療育利用開始までの期間を短くしてほしい。
155	障害者サービスを受けていた方が介護保険サービスに移行する際に対応できるケアマネージャーが少ない。現状を踏まえた制度設計や人材育成、人材確保に向けた取組をしてほしい。
156	介護人材の不足が深刻な状況であり、高齢化や過酷な労働環境の中で経験を積む前に退職してしまう傾向がある。重症心身障害者、医療的ケア児に対応できる支援員の確保は、特に困難である。金銭的な支援だけでなく、基盤の整備が必要であり、高齢や障害といった分野で分けることなく、人材確保や人材育成をトータルで考えてほしい。
157	オートロックマンションに居住する高齢者への支援において、訪問介護・訪問看護事業者が緊急時に入室できず悩んでいるという声がある。高齢者の支援には鍵の管理も含めライフスタイルに応じたトータルな支援計画の作成を促進していく必要がある。
158	総合相談窓口の整備は必要であるが、まだサービスを受けていない、サービスを知らない、サービス提供が必要であっても何らかの理由でSOSが出せない人は相談窓口につながらない状況である。サービスに関する情報はインターネット上にあふれているが、その情報を取捨選択し支援を求めることができない方も多い。必要に応じてアウトリーチを行うなど、待っているだけの窓口でなく柔軟な対応が必要である。また、対応においては高齢・障害や子どもの施策で縦割りになるのではなく、トータルな支援が必要である。
159	中野区と綿密な連携・協力関係を構築するためにも、社会福祉協議会の事務局の所在地を将来的に区役所等に移転するなどの検討が必要である。
160	介護の質の向上のために、介護士や家族向けの講座の実施や相談を受けることができるような体制を整えてほしい。
161	「誰一人取り残されることのない支援体制を構築する」ためには、重層的支援体制整備事業による多機関協働体制の構築が不可欠であり、目に見える、分かりやすいかたちでの連携体制を明示する必要がある。
162	区内の外国人住民は増加傾向が続いてる一方で、少子高齢化社会の進展により、介護職等の人材が不足している状況である。積極的に外国人を雇用し、外国人が活躍できる施策を検討すべきではないか。
163	地域包括支援センターで様々な支援を行っているのが、多くの人に知られておらず、必要な人に支援が届いていない。区が地域の人たちと協力し、より多くの人に周知できるような環境をつくってほしい。
164	すべての年代において必要な支援を受けられる体制を整えてほしい。
165	すこやか福祉センターで行う手続きや面談について、区民活動センター等でもできるようにし、すこやか福祉センターから遠い場所に居住している区民にとっての利便性を向上してほしい。
166	すこやか福祉センターの中には、自宅から行きにくい場所にある施設や、老朽化がひどく用事がなければ行きたくない施設もある。物理的距離の改善だけでなく、スポーツ施設を併設する等、精神的距離への改善も行い、施設へのアクセシビリティを向上させてほしい。
167	地域スポーツクラブは、スポーツコミュニティプラザを拠点に、地域住民により自主的・主体的に運営されるものであると認識している。しかしながら、現状は、行政と指定管理者が主導で進めているという指摘もある。本来のあり方を目指すため、体育協会や加盟団体、そして地元の教育研究機関が連携して、地域の住民や団体が主体的に運営するクラブに発展できるよう協力していきたい。
168	日常生活での座位時間を減らす習慣を定着させる教育啓発活動や事業を推進していく必要がある。
169	食育についての講演会を定期開催してほしい。

NO.	主な意見
170	区民健診の検査項目を充実させてほしい。
171	スポーツ施設や、ボール遊びのできる公園を整備し、誰もが運動しやすい環境を整えてほしい。スポーツ施設は無料で使用できる日を設けてほしい。また、地域の人と交流できるようなスポーツイベントの企画をしてほしい。
172	単身高齢者や身寄りのない方が施設に入所した場合、成年後見人を付けるのに時間を要するため、施設職員が家族に代わり対応する状況が増えている。また、入所ができない状況もある。今後、単身世帯の増加を見越し、成年後見制度の利用促進を図る施策の推進や、ケアマネージャー等の専門職への理解の促進のための施策が必要である。
173	終活関連の民間事業者が増加していることから、中立的に支援をする窓口が重要である。社会福祉協議会のあんしんサポート事業や法律相談でも終活に関する相談が増加していることを踏まえて、終活に関する専門窓口の設置を求める。
174	障害者本人の意思を尊重するための意思決定支援ツールについて、学校では活用が充実し、学びやすい環境が整備されている一方で、学校を卒業した後の環境（障害者福祉施設など）で活用が進んでいない。学校卒業後もこうした支援が途切れることなく、社会全体で本人の意思が尊重する環境を整備してほしい。
175	中野区では若者の自殺が多い。若者に命の尊さを伝えることが重要だと考える。また、若者の自殺予防対策について、区民からの意見も取り入れて実行してほしい。
176	ヤングケアラー支援について力を入れてほしい。
177	生活保護受給者の増加により、受給者一人ひとりへの十分なサポートが難しい状況にある。生活保護の相談支援体制を強化してほしい。
178	住宅確保要配慮者に関する相談体制が確立されていないため、居住支援協議会の運営支援、サポート体制及び総合相談体制の確立に向けた取組を継続してほしい。
<b>基本目標4 安全・安心で住み続けたいくなる持続可能なまち</b>	
179	歩道の段差が多いことやエレベーターが設置されていない駅があることなど、ベビーカー使用者、車いす使用者、松葉杖使用者、視覚障害者などにとって移動しづらい状況がある。こうした状況を改善していくため、区民の声を聞きながらバリアフリー・ユニバーサルデザインが浸透したまちづくりを進めてほしい。
180	歩きタバコを禁止してほしい。また、路上喫煙者も多く、利用する施設の近くが喫煙所のようにになっているため迷惑している。禁止と表示するだけでなく、罰金を取るなど取り締まりを行ってほしい。
181	公園や中野駅周辺で空き缶や吸い殻などのゴミが多く、公園で飲酒をしている人もいるため、子育てをする身としてとても不安である。子どもが安心して過ごせるような環境を整えるためにも、治安維持とまちの美化に努めてもらいたい。
182	空家を放置することは、防災、防犯、景観などの観点からも望ましくない。持ち主に区が積極的に働きかけ、区が主体となって空家対策を実施してほしい。また、空家だけでなく、空家になりそうな建物を調査し対策をしてほしい。空家を活用したファミリー層への住宅支援等も検討してほしい。
183	公共トイレに高さの低い幼児用の手洗い場がほしい。また、公園のトイレが汚く、暗くて怖い所が多いため、整備してほしい。
184	中野区は家賃が高いため、子育て世帯や高齢者にとって住み続けられるような区営住宅や安価な賃貸住宅を整備してほしい。また、区営住宅に浴槽やエアコンを設置してほしい。
185	旧中野区役所と中野サンプラザの間にある植木や中野サンプラザの上階にある植木を手入れしてほしい。また、倒壊の危険がある所は除き、区役所周辺や、平和の森公園など今ある樹木は残した状態でまちづくりを行ってほしい。
186	コミュニティバスや乗合タクシーの充実及びライドシェアの導入や自動運転車両の普及に向けた検討など、区民が移動する際の交通手段の充実を図ってほしい。

NO.	主な意見
187	区立公園は保育施設の代替園庭として、乳幼児が安全に利用できる環境であることが重要である。成長発達を助長するために、専門的で緑豊かな遊びの環境を整備してほしい。
188	練馬区の柏公園や新宿区の落合公園のような、広々とした緑地公園を早急に整備してほしい。また、四季の森公園のようなリフレッシュできる場を増やしてほしい。
189	ペットを歓迎するような施設やサービスがあると良い。
190	緑の少ない中野区で、紅葉山公園は貴重だと思う。色々なことに活用してほしい。
191	中野駅周辺の再開発が進んでいるが、他の地域の公園や児童館など各施設も綺麗にしてほしい。
192	安心、安全な歩行環境を整備して、ウォークアブルなまちづくりを進めてほしい。
193	子どもたちの通学路に灰皿を設置しているたばこ屋がある。受動喫煙など色々な危険があるため、喫煙所を設けてほしい。
194	東京都が緑農住まちづくりに力を入れている。区でも住民からアイデアを募集して、実施してほしい。
195	区には狭くて暗い公園が多く、安全面や衛生面に不安がある。また、公園に日影がないため、夏に遊びにくい。休憩することができるベンチなどを設置して、安らげる自然豊かな公園をつくってほしい。
196	自然を楽しめるようなまちづくりをしてほしい
197	(*)ゴミのポイ捨てが多く、公園のトイレも汚いところがあるため、ゴミ箱の設置や清掃等を徹底し、区民に対してまちが汚くなっていることを自覚してもらう取組みも必要だと思う。
198	保育園や障害者施設などの二次避難所に関して、区の関係者と協議を通じて、現実的な対策を確立したい。
199	災害時に女性や子ども、障害者など含め誰もが安心できるような避難環境を整えてほしい。また、災害時に必要な物資や、避難場所に係る情報をパンフレットで配布してほしい。加えて、アプリなどのデジタル技術を活用して、在宅避難をしている人の情報把握の方策を確保する必要があるのではないか。
200	災害時における危険度が高い地域や木造住宅密集地域において、各地域の状況に即した防災まちづくりを推進してほしい。木造住宅密集地域における道路の拡幅を行うことで、街の景観を損なう可能性があるため、街並みについても考慮し進めてほしい。
201	住宅の耐震化促進事業を拡充してほしい。
202	防災まちづくりを推進するにあたり、用途地域変更による既存不適格建築物等へ配慮してほしい。
203	避難生活体験イベントを身近な公園で開催するなど、区民の一人ひとりの防災意識の向上を図る取組をしてほしい。また、子どもたちが遊びながら楽しく学ぶことのできる訓練や区全体で防災訓練をする日を設けてほしい。
204	補助線街路第221号線の整備について、中野区民だけでなく、杉並区民からも意見徴収してほしい。
205	避難所として利用できるような公園が偏在している。それぞれの地域ごとに避難所として利用できる場所があると良い。
206	新しく中野区に住み始めた人は、災害時に地域の人との関係性が出来ていない中で避難生活を送るため、不安が大きいと思う。また、高齢者が一人である時に災害が発生したことを考えると不安を感じる。日頃から、町会が災害時に補助が必要な方を把握し連絡が取りやすい体制を整えておくことや、区が防災に関する情報を区民に伝えることが重要である。災害に係る体制整備や情報発信方法について工夫してほしい。
207	防災リーダーの育成を再開してほしい。
208	区内の河川における水害対策に力を入れてほしい。

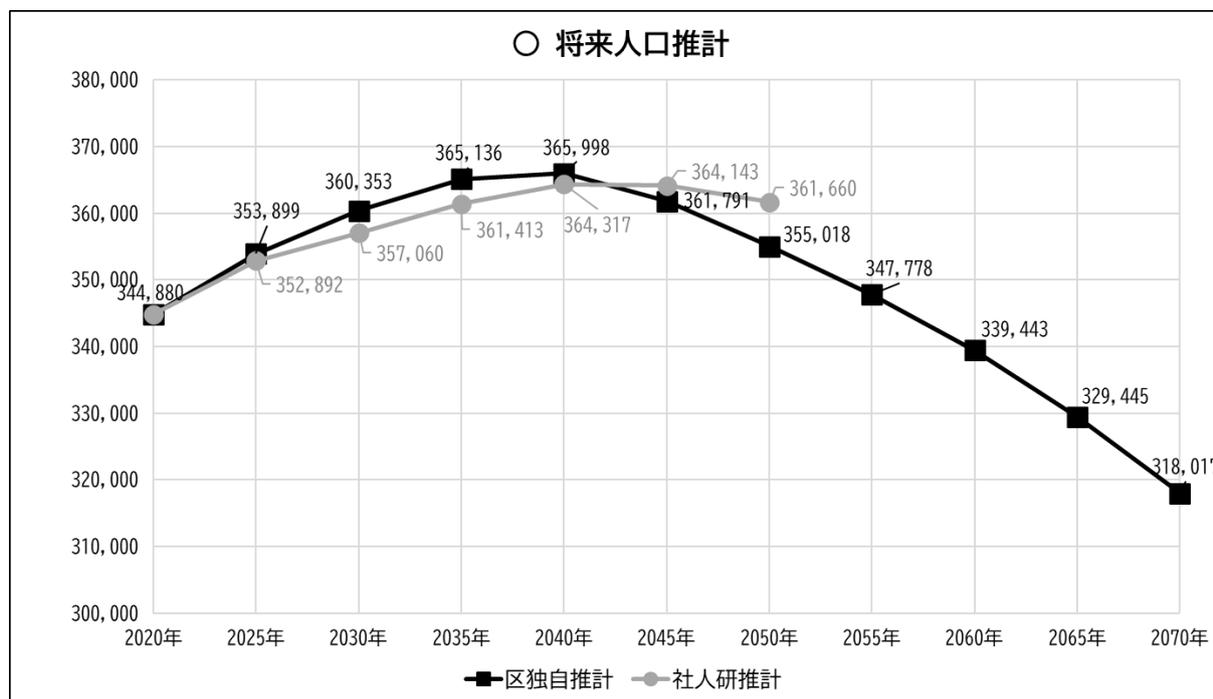
NO.	主な意見
209	まちづくりを進める中で、立退きが必要となる場合、補償で負担なく近隣に移転できるかわからない。また、これまで育んできた地域から大きく離れることを余儀なくされるとつながりが失われてしまうことへの不安がある。こうした区民が感じる不安への対応も行ってほしい。
210	各避難所指定場所の職員は受け入れ態勢の訓練をしてほしい。
211	(*)地震対策を強化してほしい。
212	統廃合後の学校の校庭や運動場を人工芝にするのは、「中野区ゼロカーボンシティ宣言」に反しているのではないか。
213	脱炭素社会の実現に向けては、環境配慮型の車の購入に対する補助金が有効だと思う。
214	省エネルギー設備設置の補助制度については、高所得者向けに感じられ、他の取組に費用をまわすべきだと思う。
215	東京都が推進する太陽光パネル設置義務化については、廃棄コストがかかるというデメリットがある。区で取り組むに際してはデメリットも周知したうえで進めてほしい。
216	脱炭素社会の実現に向け、プラスチックについては、リサイクルではなく、まず削減を第一に考えてほしい。また、SDGsの取組の一環として、庁舎内のレストランで使用するストローを紙のストローに変更してみてもどうか。
217	中野区は、医療廃棄物も多く排出されることから、区内にゴミ焼却場を建設してはどうか。
218	2030年のカーボンニュートラルに向けて、環境学習の充実を図ってほしい。
219	中野区では、ゴミを出す際にネットをかける形でゴミを集積しているが、他区（杉並区）では箱に入れるタイプで集積している。箱に入れるタイプへの切り替えを検討しても良いと思う。
220	中野区役所の太陽光パネルの数値など、区がエコ活動に取り組んだ結果を公表してほしい。
221	多くの事件が発生し、中野区は危険な街と言われることが増えた。安心して暮らせるような設備や警備、仕組みづくりをしてほしい。 子どもに対する不審行動に関する防犯メールが、行動発生から2～3日後に届いたが、もっと早く送付してほしい。
222	現在も行っているような、犯罪情報や具体的な防犯方法のお知らせを継続してほしい。加えて、小学生の通学時や放課後における不審者情報は、区内広範囲での情報をなるべく早く教えてほしい。また、子どもたちに動画で自分の姿を撮られないように注意喚起を徹底してほしい。
223	不審者が増えているように感じる。安全安心なまちづくりに向け、不審者対策に力を入れてほしい。
224	区内にミサイルが発射された場合の対応を教えてほしい。
225	(*)盗難や歩きタバコ等、モラルのない行動をする人が多く不安を感じている。また、道路が狭く暗い。安全・安心のため、道路を明るくしたり、防犯カメラや見回りなどをおこなってほしい。
226	誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指してほしい。
227	感染症対策の一環として、保育園や幼稚園等の職員に対する予防接種の補助をしてほしい。
228	予防接種にあたり、区民が安心して相談や医療を受けられるよう、接種が必要な理由や接種場所などを丁寧に情報提供してほしい。
229	熱中症対策に力を入れてほしい。
230	薬局で子どもの薬がなく、探しまわったことがあった。子どもの薬がいつでも提供されるように行政と連携してほしい。
231	区内の感染症情報の周知をしてほしい。

NO.	主な意見
232	西武新宿線沿線に未成年者が多い現状を踏まえ、公園整備等の子どものための施設の充実やイベント支援等、子ども向けの政策を実行するべきだと考える。
233	西武新宿線沿線については、商店街の活性化を図るためにも、力を入れてまちづくりを進めてほしい。
234	西武新宿線の開かずの踏切の問題について、車だけでなく自転車や歩行者も逃げ道がない状況なので複合的に検討してほしい。
235	西武線の連続立体交差事業については、区民への説明を丁寧に行い、区民からの意見を反映しながら進めてほしい。西武線を地下化し避難スペース等を作るとともに、地上も活用してほしい。また、立体化した後も、歩行者、自転車、車が通りやすいよう配慮するとともに、緑や自然を感じることができるような環境整備も進めてほしい。
236	自転車が歩道を走るなどの交通違反やマナー違反が多発している。また、フル電動自転車を使用してる方も増えてきている。交通安全対策を徹底してほしい。
237	踏切などがあり、子どもが利用する通学路が危険なため安全対策を徹底してほしい。
238	暗い道や死角が生じやすい状況の道路状況について、踏切りや照明の設置で見通しをよくするなどの道路整備を進め、街中の防犯性、安全性を向上してほしい。
239	駅周辺や四季の森公園周辺に、無料の駐輪場を整備してほしい。
240	中野駅前の再開発について、再開発に伴う人口の増加に対応できるように福祉・教育・医療が整備されているのか疑問である。また、ビルを多く建てることは倒壊等の災害につながり、環境への負荷も増大する。再開発は見直し、駅から四季の森公園までの森を再生し、区民の癒しと健康に寄与できるまちづくりを行ってほしい。
<b>その他</b>	
241	区役所広場前でイベントを行う際は、マイクやBGMの音量を控え、対象が限られるイベントは室内で実施してほしい。
242	意見交換の場だけではなく、日頃から職員が区民と接する機会が大事だと考える。窓口業務に関しても、委託になっている状況がとても心配である。
243	中野のまちの将来像「つながる はじまる なかの」について、「つなぐ」ためには、必要な人を探し、つなぐ場をつくり、時間をかけて進めていく必要があると思う。このことを念頭に「つなげる」努力をしてほしい。
244	中野区基本構想で掲げる「つながる はじまる なかの」の実現のためには、まず区役所内の横の「つながり」を実践して計画（案）を策定することが重要ではないか。特にデータの共有は必須である。
245	人と人とのつながりができ、新たな活力が生まれるためには、生産年齢人口のさらなる増加が見込まれるような施策が必須である。子育て世帯や介護世帯が中野区に引越してきたいと思うまちになれば自ずと基本構想により早く近づくと考え。
246	ガソリンの高騰に伴い、補助金などの支援を検討してほしい。
247	中野に愛着をもってもらえるようなまちづくりをしてほしい。
248	区の人口を増やし、活気あるあたたかいまちにしてほしい。
249	なかの東北絆まつりは2011年から始まり、現在も2,000万円程の予算を使っているが、利権癒着になることから、能登などの地域に切り替えて、お祭りの予算をなくしてほしい。
250	議会の傍聴や区のイベントに参加する際に、庁舎の駐輪場の利用にお金がかかってしまう。2時間以降の利用も無料にしてほしい。
251	各種手続きについて、アプリやオンラインを用いて、区役所に行かなくても簡単に申し込めるようにしてほしい。

NO.	主な意見
252	鷺宮すこやか福祉センターで室内トイレを借してくれなかった。すずみ処が高齢者しか使えなくて困る。
253	区が実施しているオンライン会議に参加する際、以前はzoomを使用していたが、Teamsに代わったことにより対応できずに困っている。Zoomに戻してほしい。
254	障害者や高齢者に関わらず、誰でも区議会を傍聴できるように、ライブ配信や録画など手段を選択できるようにしてほしい。
255	区の職員もDXについて深く学んで、区民に教えられるようになってほしい。
256	相談窓口や相談会、様々なイベントがあるが、敷居が高く参加しづらいと感じるため、工夫をしてほしい。駆け込み寺のような気軽に相談できる場所があるとよい。
257	区長の移動については、庁有車の活用、職員が運転手となることにより区長車の予算を無くしてほしい。
258	中野区の職員も街路樹の剪定について知識をつけてほしい。
<b>区有施設整備計画に関すること</b>	
259	南中野図書館の設備が古いため、近隣区である杉並区や渋谷区の図書館を使うことが多い。図書館に限らず、南中野周辺で利用しやすくなるような施設をつくってほしい。
260	障害者福祉事業団が使用している施設は、昭和39年に開設されており、約60年が経過し老朽化が著しい状況である。今後移転先を検討するにあたり、商工会館跡地、旧教育センター跡地、社会福祉会館のいずれかを候補地としてほしい。
261	廃校になった学校を利用して、高齢者と障害者が共に利用できる入所施設をつくってほしい。
262	中規模・大規模な障害者施設、あるいは、重度障害者や高齢者、子どもの支援も可能な複合施設をつくってほしい。旧中野区立第三中学校跡地が候補地として適していると考ええる。
263	中野区保健所跡地への障害者福祉会館の移転に伴い、複合施設の整備を検討していると思うが、再びパンデミックなど想定外の事態が起こった場合に、複合施設は生活介護利用者にとって不利な点が多いと感じる。障害者福祉会館に限らず、区有施設の整備にあたり、どこかで滞ってしまわないよう、検討して進めてほしい。
264	区内南部に生活介護施設が少ないことから、障害者福祉会館を中野区保健所跡地へ移転することは良いと思う。一方で、現在利用している方は、立地を通所する基準にして選んだ利用者も存在しているため、移転と並行し現在地にも生活介護施設を残す方法も検討してほしい。
265	鷺宮地域の旧西中野保育園や旧鷺宮すこやか福祉センター等、現在使用していない施設を活用し、地域の方々にとって有益な場所にするとともに、区境などの地域に住む区民にとっても区の施設等が使いやすいよう配慮してほしい。
266	区有施設整備計画について、各地域ごとにどんな施設や教育機関、相談所等があるかが分かるような計画にしてほしい。
267	既存施設の建替について、必要不可欠な場合を除き、建物の代わりに空いた土地を有効活用する方法を検討してほしい。例えば、現在の中野区には農地がないと聞いているため、児童、高齢者、障害者など誰もが交流できる区民農園などを作ってはどうか。
268	東中野区民活動センターは人々に愛される場所として人気を集めているが、東中野地域の住民数の急激な増加や避難所機能が皆無であることなど住民のニーズに十分に対応できていないと感じる。第三中学校跡地は「なんらかの区有施設の検討」という具体性に欠けた表現がされているが、次期の区有施設整備計画では施設建設の方向性を示し、住民と意見交換をしながら特別支援学校の移転が予定されている令和12年度を目途とした、具体的な跡地活用案をまとめてほしい。また、この跡地活用案を神田川沿いからの人の流れや東中野駅東口の再開発と連動して計画することで、東中野の暮らしやすい魅力的なまちづくりの向上につなげることができると考える。
269	区内の使われていない施設を有効活用してほしい。

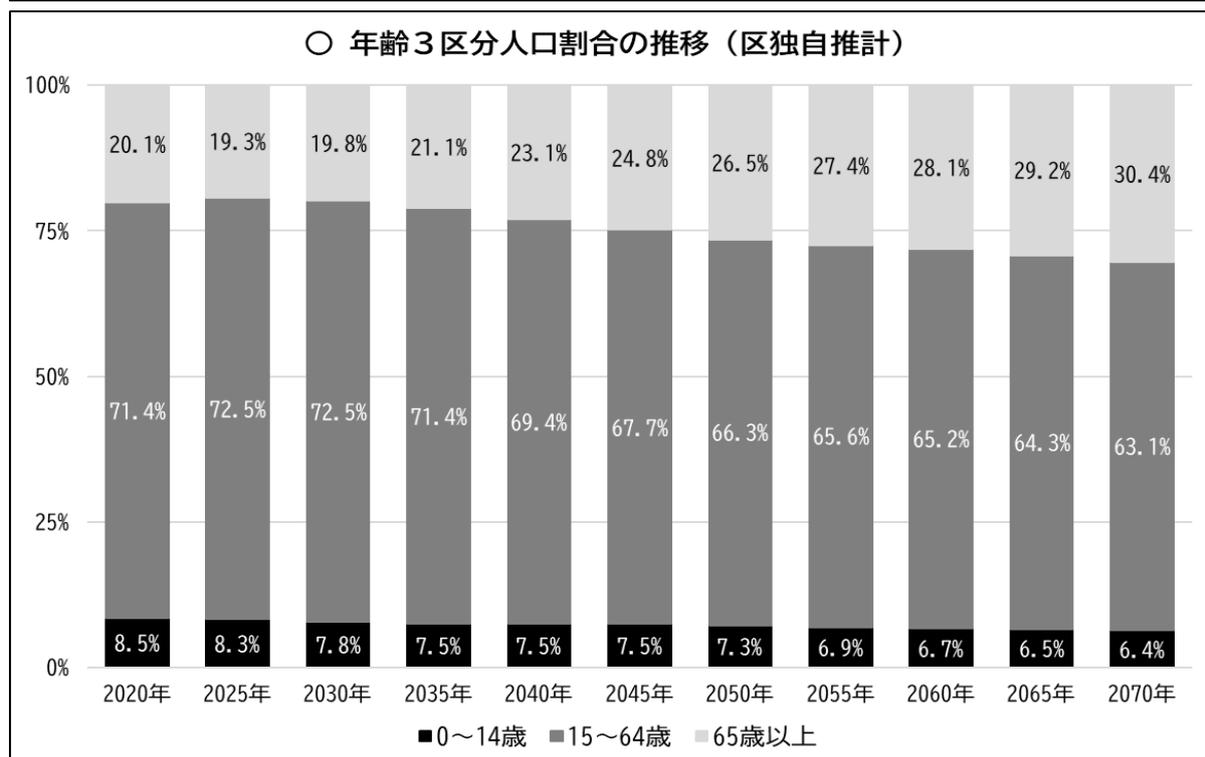
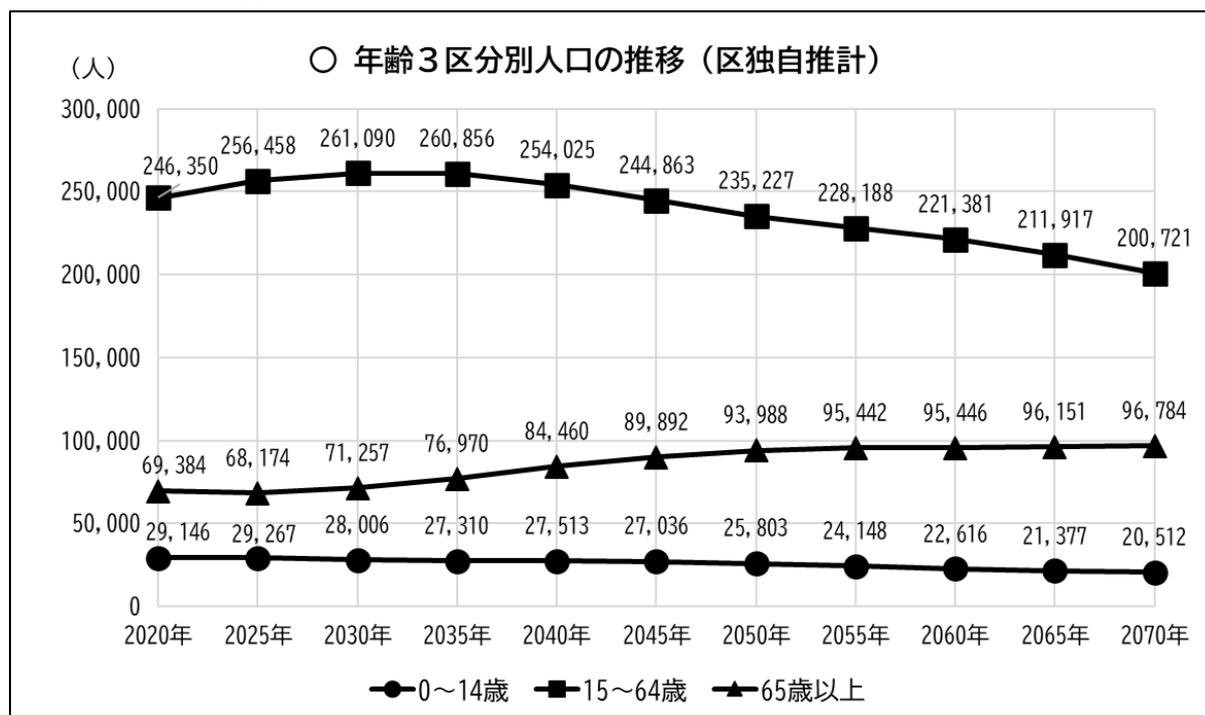
## 将来人口推計

## (1) 総人口



- 中野区の総人口は、当面の間増加が続き、2040年にピークの約36万6千人に達すると見込んでいます。その後、減少に転じ、2060年には2020年の人口を下回り、2070年には約31万8千人になると見込んでいます。
- 区独自の推計は、直近の住民基本台帳の人口及び子ども女性比の傾向を勘案した補正を加えて推計しています。国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」と比較すると、2040年までは上回るものの、2040年以降の減少傾向は顕著になると見込んでいます。

## (2) 年齢区分別人口



○0～14歳の人口は、2025年以降減少傾向が続き、2070年には約2万1千人へと減少すると推計しています。

○15～64歳の人口は、2030年をピークに減少に転じ、2070年には約20万1千人へと減少すると推計しています。

○65歳以上の人口は、2025年以降増加傾向が続き、2045年にはおおよそ4人に1人の割合となり、2070年には約9万7千人へと増加すると推計しています。